

▼第2次栃木市観光基本計画 進捗確認表(令和7年度)

基本目標4 体制・人づくり		実施スケジュール					進捗		内部評価		コメント		
基本施策		単位施策	具体的な方策			R5	R6	R7	R8	R9	内容(取組状況・課題)		コメント
1	観光推進組織の体制強化	栃木市観光まちづくり推進連絡会議の開催	栃木市観光まちづくり推進連絡会議での計画の進捗管理及び評価						着手	栃木市観光まちづくり推進連絡会議を開催し、計画の進捗管理及び評価を行っていく。令和8年度より次期計画の策定に向けた調査及び検討を行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の回数が減少した。生の意見交換の場は必要だと思う。また、以前は視察の機会もあった。着手項目の達成が増えてきたからか。 ・各地域活動の実働組織との連携、情報共有の強化を図る仕組みを合わせて検討する。 		
		観光協会の体制強化	観光協会各支部の統一化	観光協会各支部の統一化						未着手	平成30年度に各地域にあった観光協会を統一し、支部化した。支部の組織体制の統一化については、現在支部において桜まつりの実施等もあることから、当面の間現体制を継続し、DMO化のタイミングでの統一化を目指します。		
			観光協会のDMO化	観光協会のDMO化						着手	産官学連携事業の中で、本市のDMO化に向けた課題や有益性について意見交換を行った。また、DMOの登録がある佐野市と交流を行い、DMO化に向けた研究を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木市、國學院大學観光まちづくり学部、東武鉄道、当社(東武トップツアーズ)での4者共同研究による持続可能な「観光まちづくり」における3か年の事業において、DMO・DMCの重要性が再確認されました。地域のプレイヤーは生まれており、栃木市のさらなる観光発展に取り組むために、組織的かつ経営的な観光戦略を推進する必要があります。 ・目指すDMOタイプの明確化と佐野市との連携の強化。 ・DMOに関して令和7年8月27日に市の職員と観光協会の職員で近隣の佐野市(令和5年3月取得済み)に話を聞きに行った。栃木市には観光資源がたくさんあるので登録に向けて進めるのは良いが体制を整える必要がある。 	
2	観光関連事業の活性化	異業種間連携の促進	栃木市フードバレー構想に掲げる「食と観光に関する取組」の推進						着手	令和7年度は観光施設と江戸料理提供店をスポットとした「小江戸とちぎでじたるすたんぶらりい」を実施した。次年度以降も観光と食を融合したイベントを継続して実施していく。コエド市場と小江戸ブランドのコラボ商品として、地元食材を使用した太平山三大名物をイメージしたパンの試作を行い、商品化に向けて検討していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・市で課題を出し、各店でメニューを作り出すような形。 ・観光施設と江戸料理を組み合わせたデジタルスタンプラリーや、地元食材を活かしたコラボ商品の開発は、旅行商品の企画・造成に直結する魅力的な素材として高く評価できます。特に食と観光の融合は参加型ツアーや体験型プランに応用可能です。一方で、現時点では一般客向けの定常化や販売導線が十分でなく、送客や消費拡大への即効性は限定的であるため、商品化・予約運動の強化が望まれます。 		
		産業観光の開発	農林業体験や工場見学等を活用したおすすめプラン・モデルルートの作成						一部着手	令和7年度は、市内の酒蔵と連携することで、酒蔵見学の案内チラシ等を作成し、首都圏での地酒の試飲会の際にあわせて配布した。また、都内で県が主催した旅行者等への商談会では、酒蔵見学も含め、市内の体験型コンテンツの情報を改めてまとめた資料をプレゼンした。今後も、田植えや農作物の収穫等の農業体験の実施や、今年度収集した体験型コンテンツの情報発信を行っていくとともに、城跡散策デジタルマップを活用したモデルルートを作成していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えや農産物収穫等の農業体験、収穫物の食事(おにぎり、焼イモ、みそ汁、天ぷら) ・農業体験を道の駅で。 ・酒蔵見学や農業体験、城跡散策などの体験型コンテンツを首都圏での試飲会や商談会で紹介した取り組みは、当社の商品造成やツアープラン開発に非常に有用な情報源として評価できます。特に体験型コンテンツは旅行商品の付加価値を高める素材です。一方で、現時点では予約導線や販売運動が十分でなく、送客や即時的な観光消費拡大への効果は限定的であり、今後は商品化・販促展開との運動強化が望まれます。 ・農業体験の実施は、継続的に栃木市へ関わる人を増やせるので実施、継続してほしい。 		
3	市民の意識の高揚感	市民向け観光の充実化	市民に向けた観光情報の発信						着手	広報誌や市の公式LINEで市民向けに情報を発信している。また、市民が身近な観光資源に親近感や興味を持ってように出前講座を行っている。令和7年度は栃木市の観光について学ぶ出前講座を1回行った。また、「FMくらら」や「Report Tochigi」に出演し、観光情報の発信に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民向け広報や出前講座、ラジオ出演は、地域の魅力や歴史・文化への理解を深め、市民自身の誇りや愛着を醸成する点で非常に有益です。当社としても、市民が地域資源に親しみを持つことで、観光体験型ツアーへの参加意欲や口コミによる誘客効果が期待できる素材と評価できます。一方で、外部送客や旅行商品化への直接的効果は限定的であり、観光振興とシビックプライド醸成の両立が今後の課題です。 ・市の会報でもアピールしてもいいと思う。 		
		おもてなし教育の推進	児童・生徒の祭り等への参加促進	児童・生徒の祭り等への参加促進						着手	栃木駅での電車イベントでは、小・中学生向けの「謎解き企画」を実施し、大人も含め172名参加した。また、「めざせ!とちぎふるさと子ども観光大使」事業を後援し、こども観光大使の育成に協力した。来年度も引き続き、電車イベント等では子供が楽しめる企画を実施する。また、「令和8年とちぎ秋まつり」では「こども山車まつり」を開催し、大勢の児童が参加する。学生ボランティアにも協力を要請する予定である。	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社で実施している「とちぎ電車まつり」に栃木農業高校様等の出店を呼びかけ、おもてなし教育と合わせて、生徒自身のキャリア教育や地域との連携を意識する機会の創出を検討していただきたい。 ・電車イベントやこども観光大使育成、こども山車まつりは、子どもが栃木市の魅力を体験・学習し、自分のまちを誇れる気持ちを育む点で非常に有益です。地域資源への親近感や主体的な関わりが、将来的な観光ファンや地元PR力の醸成にもつながります。 	
			観光関連事業への職場体験、インターンシップの受け入れ促進	観光関連事業への職場体験、インターンシップの受け入れ促進						着手	大学生のインターンシップを積極的に受け入れている。また、高校生や大学生の調査・研究へも積極的に協力し、その中であげられた意見や感想を参考として取り入れている。また、大学生の授業の一環で栃木市の観光について講座を行い、当市の観光資源に対する興味関心の育成を図った。次年度以降も引き続き、学生の「おもてなし」の意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の新鮮な視点や意見を取り入れることで、従来の観光施策では見落としがちな魅力や改善点を発見でき、当社が旅行商品化する際の企画素材としても価値があります。また、若年層への地域愛着醸成や地元理解の深化は、将来的な地域ファン・リピーター形成にもつながります。一方で、実際の送客や即時的な観光消費への効果はまだ間接的であり、学生の活動成果を具体的な旅行商品に反映させる仕組みが今後の課題です。 ・若年層の意見を取り入れる、良い取り組みだと思えます。 ・インターンシップの受け入れはとても良い取り組みだと思うので、その後のフォローアップも行うことで、継続的に栃木市に関わってくれるような関係性を作れるとより良い。 	
4	観光まちづくりを担う人材の確保と育成	観光関係者への研修	観光関連事業者ホスピタリティ向上研修の実施						一部着手	令和3年度まで開催していた観光協会と連携し、栃木市魅力アップ観光セミナーを対象者や研修内容を見直し、実施を検討していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木市観光ツアーを定期で。 ・人材の育成という観点から講座やセミナー受講はとても大切だと思います。さらには、柔軟な発想力の醸成を目的とした、異業種交流(産官学)研修等も将来の観光まちづくりを担う人材育成として有効かもしれません。 ・是非実施すべき。 		
		観光ボランティアガイドの養成とスキルアップ	観光ボランティア養成講座の実施						着手	栃木市中心市街地をガイドする『栃木市観光ボランティア協会』や渡良瀬遊水地をガイドする『渡良瀬遊水地ガイドクラブ』、太平山トレッキングガイドを行っている『NPO法人太平山南山麓友の会』等の各観光ボランティア団体それぞれの長所等を学べるよう、引き続き交流する場を設ける調整を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木市観光ボランティアガイド協会の清田会長のガイドは、大学教授も唸らせる完成度があり、各種ツアーのアンケートでも参加者から非常に高い評価を得ています。ぜひ、後進の確保と育成をお願い致します。 ・観光ボランティア団体同士だけでなく、観光に関する様々な団体に参加する方が、お互いの長所をより深く学べるのではないかと。 		